

令和6年産大崎地域の 大豆作技術情報(第2号)

令和6年6月24日発行
宮城県大崎農業改良普及センター
TEL: 0229-91-0726 FAX: 0229-23-0910
<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

～栽培のポイント～

- ・発生草種にあわせた茎葉処理除草剤を散布し、雑草防除を徹底しましょう。
- ・中耕培土は、大豆生育と天候を見極めて、2回を目安に適切に実施しましょう。

1 気象経過

- ・5月第5半旬は少雨多照でそれ以降気温は平年並に推移し、5月第6半旬・6月第1半旬は多雨となった。6月第2半旬以降は降雨無く多照で高温傾向が第4半旬まで続いた。
- ・東北南部では、平年より11日遅い6月23日に梅雨入りしました。

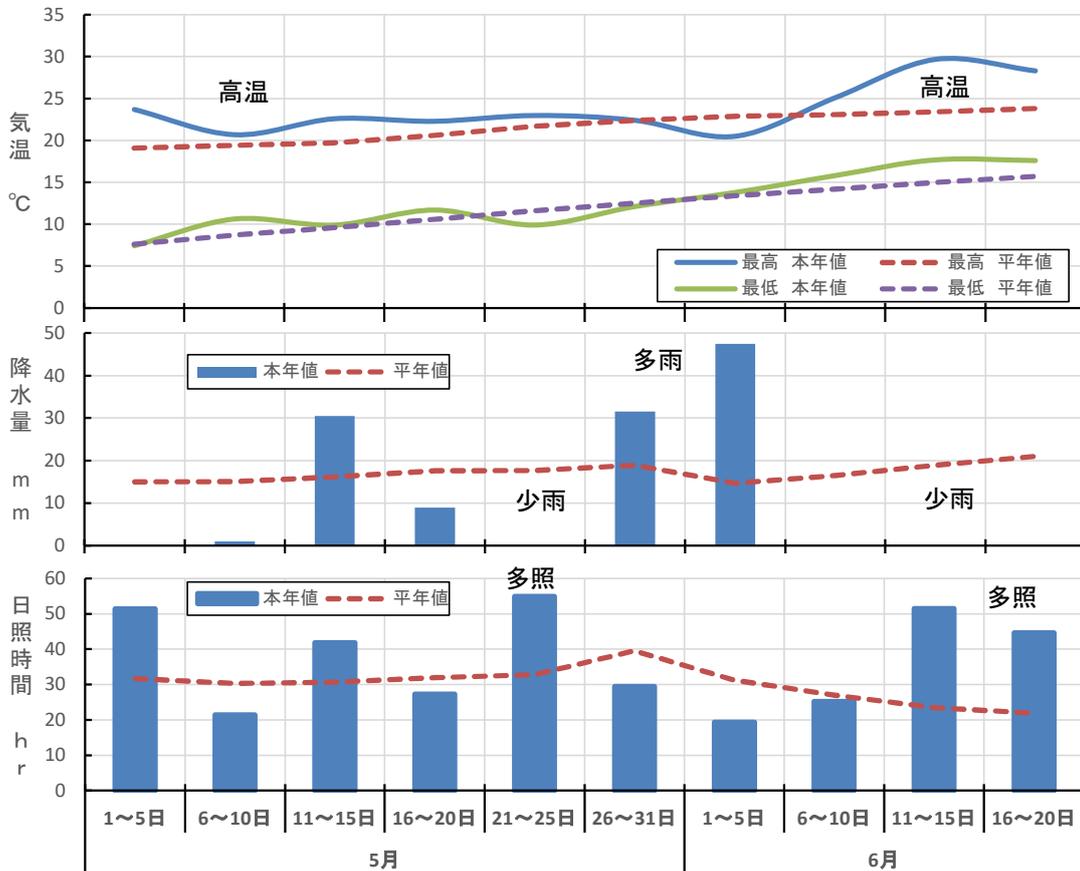


図1 気象経過 (古川アメダス)
※実線または棒グラフが本年値、点線は平年値

2 雑草防除

(1) 茎葉処理剤散布のポイント

- 大豆の2～3葉期（雑草が小さいとき）を目安に散布しましょう。
- ほ場に発生している雑草を確認し、草種に合わせて効果の高い除草剤を散布しましょう。

○大豆バサグラン液剤とアタックショット乳剤では、効果が高い草種が異なります。また両剤ともイネ科雑草への効果は劣るので、イネ科雑草が混在する場合は、イネ科雑草に有効な除草剤との体系で使用しましょう。

▶大豆バサグラン液剤の特徴

- 除草効果を優先する場合は、高温・多照条件で散布する。
- 薬害回避を優先する場合は、極端な高温・多照を避ける。

大豆バサグラン液剤の効果が高い雑草



オオイヌタデ



アメリカセンダングサ

▶アタックショット乳剤の特徴

- 高温で効果が下がる場合があるが、大豆バサグラン液剤より効果の変動は小さい。
- 薬害症状が大豆バサグラン液剤より発生しやすく、低温により症状が大きくなる。
- 他剤との混用により、明らかに薬害症状が大きくなり、生育抑制が助長される。

アタックショット乳剤の効果が高い雑草



シロザ



ホソアオゲイトウ



イヌホオズキ

表1 アタックショット乳剤の大豆生育に及ぼす影響の品種間差

リスク	品種	備考
小	ミヤギシロメ、タンレイ、きぬさやか、すずみのり	減収につながる生育抑制を生じた事例がない
中	タチナガハ	タンレイと比べて、初期の生育抑制が強く、その後の回復が不十分となる場合がある

注) 平成 27～30 年の場内試験に基づく(宮城県古川農業試験場「普及に移す技術第 94 号」参照)
「すずみのり」については、ミヤギシロメ・タンレイ並であることが確認されています。

▶パワーガイザー液剤の特徴

- 大豆の出芽直後でも全面処理できるため、雑草の発生が早い場合でも対応できる。
- 作用発現はやや遅効的で、薬剤の散布後約 1 週間で変色し、2～3 週間で枯死する。

表2 茎葉処理剤一覧 (全面散布が可能なもの)

※全面散布の場合

除草剤名	対象	使用時期	希釈倍数使用量 (散布液量)	本剤の 使用回数
大豆 バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	※大豆の2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) (ただし収穫45日前まで)	※100～150mL/10a (100L/10a)	2回以内 (畦間処理 は1回以内)
アタック ショット乳剤	一年生広葉雑草	本葉2葉期～開花前 (雑草生育期) (ただし収穫45日前まで)	30～50mL/10a (100L/10a)	1回
パワー ガイザー液剤	一年生雑草	※出芽直前～3葉期まで (雑草発生始期～2葉期)	※200～300mL/10a (100L/10a)	2回以内 (畦間処理 は1回以内)

注) 農薬の登録情報 (令和6年6月21日現在)

(2) 難防除雑草対策のポイント

難防除雑草(帰化アサガオ類、アレチウリ等)は、種子の生産量が多く、ほ場内に非常に早く拡大していきます。大崎管内においても、多発ほ場が散見されます。ほ場内外で発生が確認されたら、早めの対策を行い拡大防止に努めましょう。

▶ 難防除雑草は入れない・広げない

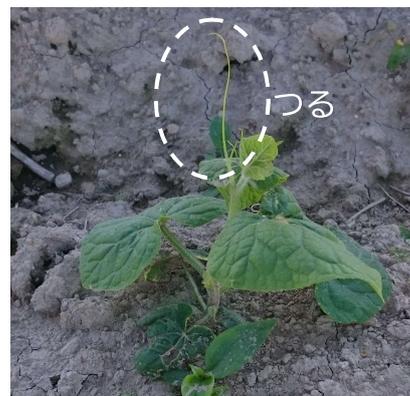
- ほ場の周辺に気を配る⇒畦畔などほ場の周辺から侵入することが多い。
- 他のほ場に移動させない⇒発生ほ場の機械作業は最後に行い、作業終了後は機械の清掃を徹底する。
- 侵入初期に手取り除草を含めて徹底的に防除する。

▶ 茎葉処理剤散布のポイント

- 大豆の2～3葉期(雑草が小さいとき)を目安に、早めに散布する。
- つるが伸びると大豆に絡みつき、薬剤が掛かりにくくなるので、つるが伸びる前(小さいうち)に散布する。つるが伸びて大きいものは手取りで除草する。



帰化アサガオ類



アレチウリ

3 中耕培土

中耕培土には不定根による生育促進や土壌の攪拌による雑草の耕種的防除等の様々な効果があります。

梅雨時の作業となりますが、大豆生育と天候を見極めて、適切に実施しましょう。

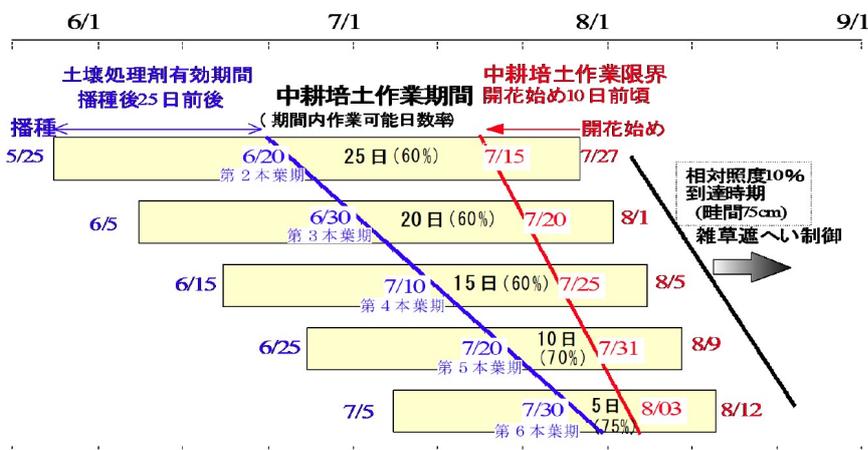


図 中耕培土作業可能期間のめやす

▶中耕・培土の留意点

- 効果を高めるために必ず2回行う。
- ※雑草の発生が著しい場合は3回実施する。
- 遅くとも開花の10日前までに終わらせる。
- 株元へしっかり土寄せする。
- 株元に土が掛からないと、以下の悪影響が考えられる。
 - ・水たまりができる（湿害の誘因）。
 - ・不定根の発生が抑制される（生育不良）。
 - ・倒伏しやすくなり、刈り取りが困難となる。

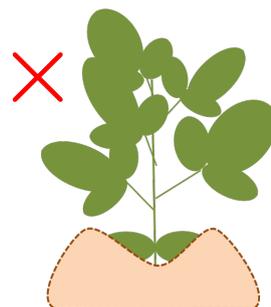
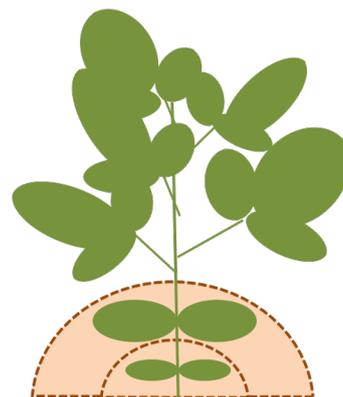


表3 中耕培土の目安（5月下旬～6月上旬播種）

回数	作業時期	培土の高さ
1回目	本葉2～3葉期	子葉節が隠れる程度
2回目	本葉6～7葉期	初生葉が隠れる程度

注）晩播の培土は本葉5～6葉期に1回行う。

東北地方1か月予報（6月22日から7月21日までの天候見通し）
令和6年6月20日 仙台管区气象台 発表抜粋

<特に注意を要する事項>
期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

<向こう1か月の各階級の確率（%）>

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】 東北地方	10	20	70
【降水量】 東北太平洋側	30	30	40
【日照時間】 東北地方	40	30	30

<気温経過の各階級の確率（%）>

	低い	平年並	高い
1週目 東北地方	10	20	70
2週目 東北地方	10	20	70
3～4週目 東北地方	20	30	50

◆◆◆◆◆春の農作業安全確認運動実施中（3月1日～6月30日）◆◆◆◆◆
令和6年農作業安全確認運動スローガン 「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」

◆◆◆◆◆農薬危害防止運動（6月1日～8月31日）◆◆◆◆◆
運動のテーマ 「守ろう 農薬ラベル、確かめよう 周囲の状況」

「大崎地域の稲作技術情報」, 「大崎地域の大豆作技術情報」, 「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右のQRコードを読み取ってください。

